

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井 (東ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町村受理日	令和元年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kani=true&jiyosyoCd=2297300028-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩ができる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれています。入居者様がストレスを感じにくい様にして頂き、認知症の進行を少しでも遅れさせること、残りの人生を楽しく暮らして頂けるように、努力しております。スタッフは、イベントなどの計画を積極的に行っています。特に外出に関しては、季節ごとにお出かけをしたりしております。例えば「磐田農高バラ園」「可睡ゆりの里」「花鳥園」など、入居者様が喜んで頂けるような場所を選びながら、スタッフが計画から実行までを責任を持って行ないました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一緒に働く仲間だった新管理者の下、協力意識が高まっている事業所です。内では「なんでも言い合える」職場風土を、外へは「地域へ発信できる」事業所を目指し、玄関に置かれたシフト表や「個別レク(個別外出等)」には姿勢と実践が滲みまます。平均介護度2とあって、レースのカーテンを引いて光調整する利用者もいて、個別レクにおいても「他の人に気を遣わなくていいのがいいね」との声も挙がっており、職員とともに利用者とも一つの家族となりつつ在ります。「福来老(ふくろう)通信」では居室担当・看護師からの報告、行事案内、笑顔の写真等をA3版で届けていて、家族との会話では「読んでくれている」ことが判り、励みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を掲げその理念を掲示しながら、共有を図っている。昨年10月より管理者が交代した関係もあり、運営理念については、職員の意見も取り入れながら変更していく予定。	新管理者は「地域との関わりを増やしたい」「理念は職員の総意でつくりたい」との考えを持って、意欲的に動いています。理念については、現在全体会議などを通じて職員間で協議しており、近々に新たな理念が誕生する予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎週ボランティア等の受け入れや、運営推進会議の定期的開催、地域の防災訓練参加や納涼祭への参加や毎年10月に行う地域の北祭りの参加など行っているが、ホームからの発信が行えていない。	目前のグラウンドで練習するサッカーの少年チームには事業所の駐車場やトイレを貸し出していて、チーム内には利用者のひ孫もいて、外気浴を兼ねて練習観戦で楽しむ日もあります。また中学生の職業体験の受入れや地域の祭りへの協力もおこなっています。	幼児、園児の交流が増えるよう、近隣の園への働きかけを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからの発信は今はなく、認知症相談窓口などの設置などを今後行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況の報告や取り組み内容、行事の報告などを中心に行っている。現在は自治会を中心で行っており、偶数月の土曜日8:30~9:00の開催となっている。短時間で効率よく話し合いができるように心掛けている。	運営推進会議には、自治会から会長だけでなく副会長も出席くださっています。民生委員も長く就いていて事業所への理解も有り、新管理者が望む「地域情報の収集、地域への発信」の絶好の場と成っていることが議事録からも覗えます。	参加メンバーと協議したい内容は予め報せたり、ピンポイントで開始時に伝えると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要度を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。	地域包括支援センターに講師をお願いして、事業所内で認知症サポーター養成講座を開催、13名の職員にオレンジリングを授与されました。また運営推進会議は土曜日の早朝8時半からですが、市役所の職員も快く協力くださり、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の中で、身体拘束の具体的な行為の理解や日頃の支援の中で対象の行為はないか、振り返りを行っている。ユニット入り口は事務所に職員が要るときは施錠しないている。	昨年の法改正では指針を整備し、身体拘束廃止委員会を設置のうえ、滞りなく3ヶ月に1度開催されています。以前から長く「虐待・不適切ケア」「身体拘束」それぞれについて3ヶ月に1度のチェックシートに取り組んでいることもあって目に見える大きな課題はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回の研修の中で身体拘束の具体的な理解、予防週間の設定を行ない、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回全体会議内で研修を行っている。1名成年後見制度を利用されている利用者があるが、なかなか制度自体を全て理解できるような所までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等の読み合わせを行ない、説明を行なっている。不明な点があれば、随時問い合わせに対して説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行ない、状況を把握している。結果はホーム内へ掲示する事と、問題点については対応策をスタッフと共に検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。	法人が年1回おこなうアンケートでも家族の苦言は挙がるとともに、直接要望や相談も届いており、事業所ではできる限り実現できるよう図っています。墓参りに職員が付添うこともあり、また勤務日でなくても面会の多い週末は管理者が顔を出すよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時個人面談を行ない、職員の要望を確認している。契約社員については、契約締結前には必ず行っている。正社員については、随時行う形である。	全体会議及びユニット会議は月例で実施していて、全員の発言機会を設けています。会議ではない日常の場面で職員が管理者に進言することも間々あり、特に「個別レク(個別に外出、買い物などを支援)」について盛んに意見や提案が出ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度が体系化され、具体的に改善すべき点が明確になるようになった。各職員が目標に向かって向上心を持って取り組めるよう努めていく。また、業務を見直し労働時間の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒の職員へは、本社教育研修課の研修を1年後3年後実施している。中途採用の職員に対しては、社内研修を実施している。法人外の研修の機会が少ない為、今後の課題となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会は少なく、今後相互訪問等の機会を持ちサービスの向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聴き取りができる範囲で困っている事、不安な事について伺っている。しかし、家族関係など言いにくいことなどがあった場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくこともある為、随時ケアプランへ織り込む形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームはその方の家と捉え、「ご本人の有する力を活かしながら、支援すべき事を見極めその方が主体的に生活していただけるよう常に模索している。」		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を中心に「課題に対して相談や意向を確認しながら支援している。」		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の会話の中から、馴染みの場所の話題が聞かれた際は、可能な限りその場所を訪れる。日常の会話の中から地域の事や今までの生活を伺っている。	「個別レク」では「家に帰りたいよ」にも職員が付添って応えるほか、馴染みの美容師に居室で出張利用をおこなってもらっている人もいます。お茶やお菓子の配膳を手伝った後、運営推進会議の席につく利用者や、梅酒を愛飲する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮し、利用者同士が支え合って生活できるように努めている。(食席の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や転居されたご利用者様のご家族様から近況のお手紙や来訪にてご報告をいただいたり、ご逝去された際には、ご連絡をいただき葬儀にも参列しお別れをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話の中で、どのような暮らしを望んでいるか要望をくみ取るよう努めている。また、ご家族様からの要望等を伺いながら把握に努めている。	センター方式のB-1、2、3を契約時に家族に作成してもらうことで事前把握を確かなものとし、入浴や個別レクなどマンツーマンの時間において耳を傾けています。琴の師範だった人は家族に琴の持ち込みをお願いしつつ、本人とも演目発表の機会を探っているケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行ない、暮らしの情報シート記入していただき生活歴の把握に努めている。(聴き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の認知面・身体機能等を観察・考慮しながら、得意な事に着目し有する力を継続できるように作業や活動のお誘いをして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行ない、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には、電話や面会の時に話を伺っている。	毎月3名ずつカンファレンスをおこない、開催前には「サービス担当者会議資料(現状を項目毎に記載するシート)」をフロアに置き、全職員で随時記載して情報を整理してから臨んでいます。4表の日課表も具体的で分かり易いことを視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報共有しなければいけないことは、書面にして伝えたり、連絡ノートに記入しユニット内の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所では、ご利用者様ひとり一人に合った個別レクなどを行い、その時々生まれるニーズに対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカラオケボックスや飲食店などを利用したりホーム内の取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば、無理に主治医の変更は求めている。	月1回訪問診療がある協力医に全員が変更していて、受診には週3日勤務で24時間オンコール対応のホームナースが立ち合い、各ユニットの「往診ノート」に記録を残しています。皮膚科などの専門医に通う人はいませんが、あれば家族にお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1～2回の勤務(7時間)ではあるが、限られた時間の中で体調の変化の確認と対応を中心に行ない、普段の状況を的確に伝えるように努力している。24時間の連絡体制を整備する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加をしている。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に看取りについてのホームでの考え方については、しっかりと説明を行っている。	口径摂取が難しいといった重度化の兆候を踏まえて医師、家族、事業所で話し合う場を持ち、「看取りがはじまったらいつでも呼び出しているからね」と真摯な対応をくださる医師とホームナースがいて、安心な体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変や事故の発生に備えている。研修の中でシュミレーションを行ない、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、うち1回は夜間を想定して誘導できるよう訓練している。地域の方の協力体制が不十分な為、協力を得られるよう今後関係を構築していきたい。	年2回の法定訓練では職員もプラスで配置して出勤者を増やし、また夜間想定もおこない、警報機の代わりに目覚まし時計を使う工夫もあります。明日実施される地域の防災訓練は「地域の皆さんとコミュニケーションを図る」ことへ期待を込め、8名の利用者が参加を予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語を用い、尊厳を持った関りや言葉を用いるよう努めている。時にはその場に応じた親しみを込めた言葉を用いる事もある。	明け方に眠りにつく利用者は「動くのが好き」な事もあって東西ユニットの横断を日課とし、どちらのユニットでも「お茶どうですか」と声をかけ、おやつも本人が東西を選んで摂っていて、現在は23時半過ぎに就寝しているとの事例からも、本人を尊重したケアがあることが伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話や表情や仕草から、希望や思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースで過ごしていただけるよう努め、自発的に活動がなされるよう意図的な環境物を配置している。その日の気分に合わせて、さりげなく見守ったり、ご自身でその日の過ごし方を決定する事が困難な方には、その方に合わせた活動へとお誘いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髭などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の認知面を考慮しながら、得意な家事の部分を持って頂いたり、共同して準備や片付けを実施している。	副菜も2品つく食事は関連会社の調理師が手作りしていて、ごく普通の家庭のような食卓風景が広がっています。包丁さばきの上手な利用者、快く下膳を手伝う人、お好み焼きやホットケーキの参加型に意欲が湧く人もいて、事業所でも「季節に合った食事」に配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状況に合わせて、食事形態や食事量を調整している。また、水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意をする場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行ない、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄表をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁にて不快な思いをさせないように努力を行っている。	排泄チェック表をつけていますが、自立した利用者が多くいて、誘導や介助が必要な人はわずかです。「夜間17回トイレ」という人もいて、睡眠優先ではなく本人の意向に応え、本人の「よく眠れたよ」との言葉を毎朝聞くたびに安堵を重ねています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出掛けている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入浴していただいている。時間帯もひとり一人に合わせて入浴していただいている。	家庭にあるごく普通の浴槽は清掃が行き届き、入浴の楽しみも考慮して浴剤は3~4種類から選んでもらうよう用意しています。「もりの湯」「柚子の湯」と、その日のお湯が何かを入口に表示できるようにして入浴タイムを盛り上げるとともに、「夕食後に入りたい」希望にも応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においては、身体の状況や希望に合わせて、休息をして頂いたりしている。体調が良い時などには活動的に過ごしていただき夜間の安眠へと繋げられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも、処方内容がわかるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的な事については、その方が何が好きなかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と旅行や食事、イベント等に出掛けられている。(温泉、野球観戦、句会など)	目今の公園を1周する散歩が頻回にあり、また職員の発案から始まった「個別レク」では食事、墓参り、カラオケ、本人が働いていた店舗へと出かけています。静岡空港、福田港、近藤資料館へと足を延ばしたミニドライブは毎月1回実施できていて、利用者の笑顔と歓声に実っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭の管理が困難な為、ほとんどの方が施設にて管理を行っている。個々のお小遣いをお預かりする預り金制度を中止した為、個々の金銭を扱うことは無いが、イベントや個人の買い物時には機会があれば「お金を使う」事への支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務者など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。年末にはご家族様宛に年賀状を書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季に合った飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。	東西のユニットを結ぶ長い廊下にはミッケルアート(回想促進の昭和写真アート)、外出や行事の写真が貼り出されてミニギャラリーのようです。平均介護度2とあって、レースのカーテンを引いて光の調整をしたり、結び目を直したりと、利用者が職員のように振る舞う様子に和みます。	換気扇など普段目にしない箇所の清掃機会を設けることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持ってこられるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いをしている。入居されてからも、動線を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが予め配されているものの、ロングスカートをお洒落に着こなす利用者の居室には色調が揃ったチェスト、鏡台、テーブルのほかテレビ、絨毯も持ち込まれ、本人の好みが如実に表れていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手摺のレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活ができるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井 (西ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町村受理日	令和元年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2297300028-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩ができる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれています。入居者様がストレスを感じにくい様にして頂き、認知症の進行を少しでも遅れさせること、残りの人生を楽しく暮らして頂けるように、努力しております。スタッフは、イベントなどの計画を積極的に行っています。特に外出に関しては、季節ごとにお出かけをしたりしております。例えば「磐田農高バラ園」「可睡ゆりの里」「花鳥園」など、入居者様が喜んで頂けるような場所を選びながら、スタッフが計画から実行までを責任を持って行ないました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一緒に働く仲間だった新管理者の下、協力意識が高まっている事業所です。内では「なんでも言い合える」職場風土を、外へは「地域へ発信できる」事業所を目指し、玄関に置かれたシフト表や「個別レク(個別外出等)」には姿勢と実践が滲みまます。平均介護度2とあって、レースのカーテンを引いて光調整する利用者もいて、個別レクにおいても「他の人に気を遣わなくていいのがいいね」との声も挙がっており、職員とともに利用者とも一つの家族となりつつあります。「福来老(ふくろう)通信」では居室担当・看護師からの報告、行事案内、笑顔の写真等をA3版で届けていて、家族との会話では「読んでくれている」ことが判り、励みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を掲げその理念を掲示しながら、共有を図っている。昨年10月より管理者が交代した関係もあり、運営理念については、職員の意見も取り入れながら変更していく予定。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎週ボランティア等の受け入れや、運営推進会議の定期的開催、地域の防災訓練参加や納涼祭への参加や毎年10月に行う地域の北祭りの参加など行っているが、ホームからの発信が行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからの発信は今はなく、認知症相談窓口などの設置などを今後行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況の報告や取り組み内容、行事の報告などを中心に行っている。現在は自治会を中心で行っており、偶数月の土曜日8:30～9:00の開催となっている。短時間で効率よく話し合いができるように心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要度を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の中で、身体拘束の具体的な行為の理解や日頃の支援の中で対象の行為はないか、振り返りを行っている。ユニット入り口は事務所に職員が要るときは施錠しないている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回の研修の中で身体拘束の具体的な理解、予防週間の設定を行ない、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回全体会議内で研修を行っている。1名成年後見制度を利用されている利用者がいるが、なかなか制度自体を全て理解できるような所までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等の読み合わせを行ない、説明を行なっている。不明な点があれば、随時問い合わせに対して説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行ない、状況を把握している。結果はホーム内へ掲示する事と、問題点については対応策をスタッフと共に検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時個人面談を行ない、職員の要望を確認している。契約社員については、契約締結前には必ず行っている。正社員については、随時行う形である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度が体系化され、具体的に改善すべき点が明確になるようになった。各職員が目標に向かって向上心を持って取り組めるよう努めていく。また、業務を見直し労働時間の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒の職員へは、本社教育研修課の研修を1年後3年後実施している。中途採用の職員に対しては、社内研修を実施している。法人外の研修の機会が少ない為、今後の課題となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会は少なく、今後相互訪問等の機会を持ちサービスの向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聴き取りができる範囲で困っている事、不安な事について伺っている。しかし、家族関係など言いにくいことなどがあった場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくこともある為、随時ケアプランへ織り込む形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームはその方の家と捉え、「ご本人の有する力を活かしながら、支援すべき事を見極めその方が主体的に生活していただけるよう常に模索している。」		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を中心に「課題に対して相談や意向を確認しながら支援している。」		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の会話の中から、馴染みの場所の話題が聞かれた際は、可能な限りその場所を訪れる。日常の会話の中から地域の事や今までの生活を伺っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮し、利用者同士が支え合って生活できるように努めている。(食席の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や転居されたご利用者様のご家族様から近況のお手紙や来訪にてご報告をいただいたり、ご逝去された際には、ご連絡をいただき葬儀にも参列しお別れをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話の中で、どのような暮らしを望んでいるか要望をくみ取るよう努めている。また、ご家族様からの要望等を伺いながら把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行ない、暮らしの情報シート記入していただき生活歴の把握に努めている。(聴き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の認知面・身体機能等を観察・考慮しながら、得意な事に着目し有する力を継続できるよう作業や活動のお誘いをして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行ない、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には、電話や面会の時に話を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報共有しなければいけないことは、書面にして伝えたり、連絡ノートに記入しユニット内の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所では、ご利用者様ひとり一人に合った個別レクなどを行い、その時々生まれるニーズに対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカラオケボックスや飲食店などを利用したりホーム内の取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば、無理に主治医の変更は求めていない。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(7時間)ではあるが、限られた時間の中で体調の変化の確認と対応を中心に行ない、普段の状況を的確に伝えるように努力している。24時間の連絡体制を整備する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加をしている。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に看取りについてのホームでの考え方については、しっかりと説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変や事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行ない、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、うち1回は夜間を想定して誘導できるよう訓練している。地域の方の協力体制が不十分な為、協力を得られるよう今後関係を構築していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語を用い、尊厳を持った関りや言葉を用いるよう努めている。時にはその場に応じた親しみを込めた言葉を用いる事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話や表情や仕草から、希望や思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースで過ごしていただけるよう努め、自発的に活動がなされるよう意図的な環境物を配置している。その日の気分に合わせて、さりげなく見守ったり、ご自身でその日の過ごし方を決定する事が困難な方には、その方に合わせた活動へとお誘いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髭などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の認知面を考慮しながら、得意な家事の部分を担当して頂いたり、共同して準備や片付けを実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状況に合わせて、食事形態や食事量を調整している。また、水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意をする場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行ない、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄表をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁にて不快な思いをさせないように努力を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出掛けている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入浴していただいている。時間帯もひとり一人に合わせて入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においては、身体の状況や希望に合わせて、休息をして頂いたりしている。体調が良い時などには活動的に過ごしていただき夜間の安眠へと繋げられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも、処方内容がわかるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的な事については、その方が何が好きなかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と旅行や食事、イベント等に出掛けられている。(温泉、野球観戦、句会など)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭の管理が困難な為、ほとんどの方が施設にて管理を行っている。個々のお小遣いをお預かりする預り金制度を中止した為、個々の金銭を扱うことは無いが、イベントや個人の買い物時には機会があれば「お金を使う」事への支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務者など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。年末にはご家族様宛に年賀状を書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季に合った飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持ってこられるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いをしている。入居されてからも、動線を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手摺のレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活ができるように配慮している。		